つながっているよ、人も光回線も——

12月末、内子町全域の光ファイバー網が完成しました。インターネットの環境が整い、情報通信の快適性や利便性の向上などが期待されています。今回は町内全域で光回線がつながることを機に、改めてインターネットなどの情報通信技術のメリットやデメリットについて考えます。情報格差の問題もありますので、ちょっと苦手という人もぜひ読んでみてください。

無料通話アプリ「ＬＩＮＥ」を使ってテレビ電話を楽しむ子どもたち。

タブレットで動画を楽しむ水田直也（なおや）さん＝寺村＝のご一家。「光回線になってから利用頻度や楽しみ方が増えました」

「未来」が少し近くなる

地域間デジタル・ディバイドを解消する「内子町情報通信基盤整備事業」が12月末に完了しました。これからは町内全域で光回線サービスを受けることができます。情報通信の技術は日進月歩――。想像していたような未来が、もうそこまで近づいているのかもしれません。

デジタル・ディバイドって何？

デジタル・ディバイドとは「インターネットやパソコンなどの情報通信技術を利用できる人とできない人との間に生じる格差」のことをいい、特にブロードバンドなどの利用に関する地域の格差を「地域間デジタル・ディバイド」といいます。

これからの社会では、もっと大容量の情報のやりとりやサービスが増え、高速なデータ送信が必要になると考えられます。内子町の中心部は光回線への接続が可能でしたが、それ以外の地域では、大瀬地区と立川地区がADSL、それ以外のブロードバンドゼロ地域には、人工衛星を利用したサービスが提供されていました。条件により通信速度が遅かったり、通信量に制限があったりするため、どの地域に住んでいても同じ水準のブロードバンドサービスを受けられる環境の整備が、内子町の大きな課題でした。

町内全域に光ファイバー網

そこで内子町は、利便性の向上と地域間デジタル・ディバイドの解消を目的に「内子町情報通信基盤整備事業」を実施。12月28日に事業が終了し、内子町全域で光回線サービスを受けられることになりました。利用にはプロバイダーとの契約、パソコンやスマートフォンなどの機器が必要ですが、快適にインターネットなどを楽しむことができます。

なぜ内子町が整備？

情報通信基盤を整備するのは、原則として民間事業者です。しかし内子町内全域への光ファイバー網の整備は、採算性などの問題から困難でした。

地域間デジタル・ディバイドは、あらゆる格差を拡大させる可能性が大きいため、整備を怠れば新しい社会問題や経済問題に発展する恐れがあります。未来につながるまちづくりの基盤として、内子町が費用の一部を負担することで事業を実現しました。これからはICT技術を利用して、医療や教育など、さまざまな分野の課題を解決することが期待されています。上の図はその一部――。国内ではモデル事業などにより、すでに実施されているものもあるそうです。「未来」のまちづくりは、もう始まっています――。

ICTプチ活用①
QRで翻訳できる

看板や印刷物を簡単に多言語化できる「QRトランスレーター」。携帯などの端末でコードを読み取ると翻訳文が表示されます。内子町では英語やドイツ語など6カ国語に翻訳が可能。右上の表示がある案内板などで利用できます。内子町ビジターセンターには「フリーWi-Fi」もありますので、ご活用ください。

【用語の説明】

①ADSL――電話線を利用する高速インターネット通信技術。より高速な光ファイバーなどに変わりつつある
②ブロードバンド――高速で大容量のデータ通信を可能とした回線
③プロバイダー――インターネット接続会社のこと。インターネットへの接続手続きを代行している
④ICT――情報通信技術のこと。「IT」とほぼ同じ意味。

ICTプチ活用②
広報紙がスマホに届く

広報うちこ配信中
マチを好きになるアプリ
マチイロ

＼内子町がもっと身近になる機能が盛りだくさん／
1 役立つ行政情報を見逃さない！
2 自分に合わせた情報が届く！
3 いろいろなマチの魅力をお届け！

ダウンロードはこちらから
App Store からダウンロード
Google Play で手に入れよう

※「広報紙」をご利用中の場合、アップデートによって新アプリに切り替わりますので、新たにダウンロードする必要はありません。　※アプリの使用は無料ですが、通信費は各回線ごとのご負担となります。※広告が表示されますが、各自治体とは何ら関係ありません。

マチイロに関する問い合わせは株式会社ホープ（092-716-1404）まで

便利だからこそ上手に使おう

便利なインターネットですが、危険とも表裏一体です。
子どもたちが普通にインターネットを使う時代。
大人がその危険性を理解し、正しく安全な使い方を知ることが重要です。

インターネットやアプリは安全に正しく使えば、とても役立つ便利な道具です。情報収集のほか、買い物やゲーム、家族・友人との連絡など、今では私たちの暮らしと切り離せないものになっています。しかし便利な反面、トラブルも次々と発生しています。誹謗中傷やいじめの温床になったり、事件や犯罪に巻き込まれるきっかけになったり、常に危険と隣合わせです。

内閣府の調査で、9歳以下の約4割が、スマートフォンや学習用タブレットなど、何らかの機器でインターネットを利用していることが分かりました。また、SNSなどによる被害児童数は20年から28年の間に約2.2倍に増加。インターネットを巡る問題は低年齢化の一途をたどっているようです。

これからの時代を生きる人々にとって、情報活用能力は不可欠――。避けて通ることはできません。だから今、インターネットやスマートフォンをはじめとするデジタル機器、SNSによるコミュニケーションなどを「賢く安全に使うための知識・知恵」や「ルールを守って使える心」を育むことが大切です。

多様化、巧妙化、
インターネットトラブルに要注意

今年度（１月25日現在）、消費生活相談窓口に寄せられた架空請求や電気通信関係の相談は83件ありました。架空請求については、内子町でも実際に２件の被害が発生。以前の手口は有料アダルトサイトなどの未納請求でしたが、今は大手インターネット通販会社の名をかたる手口が多くなっています。

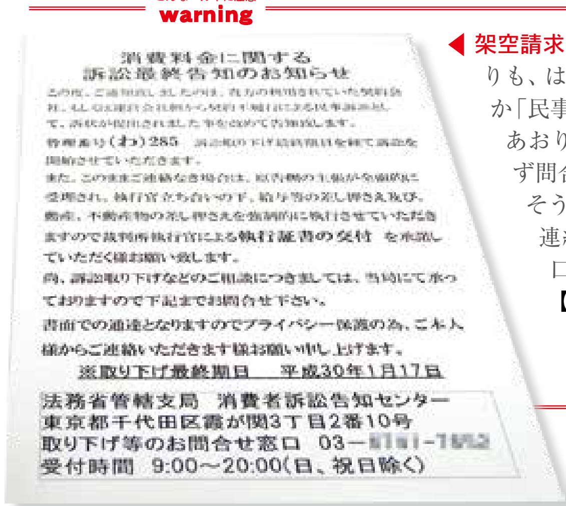
架空請求は日々新しい手口による被害が発生し、悪質巧妙です。被害額が大きく、お金は絶対に返ってきません。身に覚えのない話は無視するなど、絶対に相手に連絡をしないでください。まず連絡を取るべきは、家族や警察、消費生活相談窓口です。

電気通信関係では29年度は７件と少ないですが、高齢者を狙った勧誘が多く注意が必要です。光回線の契約では、電話や訪問販売などの勧誘トラブルが目立ちます。

訪問販売では、ただ「安くなる」と勧誘。解約した場合に手数料や工事費などの負担があることを説明せずに契約し、後日、トラブルになるケースがあります。また電話勧誘では事前に資料が送られることが少ないため、口答の説明だけで契約内容を確認するのは危険。口答でも契約は成立してしまうので、なおさら注意が必要です。電話でも訪問販売でも、安易に返事はせず、書面などを確認した上で契約するよう心掛けてください。

内子町消費生活相談窓口
相談員　福岡　見字（けんじ）さん

こんなハガキに注意
warning


消費料金に関する
訴訟最終告知のお知らせ
管理番号（わ）285　訴訟取り下げ期日を経て訴訟を開始させていただきます。
尚、訴訟取り下げなどのご相談につきましては、当局にて承っておりますので下記までお問合せ下さい。
書面での通達となりますのでプライバシー保護の為、ご本人様からご連絡いただきます様お願い申し上げます。
※取り下げ最終期日　平成30年1月17日
法務省管轄支局　消費者訴訟告知センター
東京都千代田区霞が関3丁目2番10号
取り下げ等のお問合せ窓口　03—[redacted]
受付時間　9:00〜20:00（日、祝日除く）

◀ **架空請求のはがき**—最近はメールよりも、はがきが多い。「法的手段」とか「民事裁判」などの言葉で不安をあおります。内容も巧妙で、思わず問合わせ先に連絡してしまいそう。すぐに問い合わせ先には連絡せずに、消費生活相談窓口に相談しましょう。

【相談・問い合わせ】
内子町消費生活相談窓口
☎0893（44）5026

子どもたちのインターネット利用に潜む危険

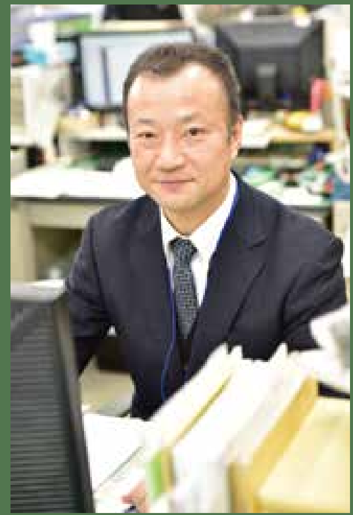
内子町では、ここ５年くらいで、スマホなどを持つ子どもの数が増えています。今後も増える見込みです。光ファイバー網の整備でインターネット環境がよくなり、ますます便利になりますが、常に危険と隣り合わせであることを忘れてはいけません。

児童ポルノや出会い系サイトの問題や事件は、田舎でも十分にあり得ることです。場合によっては命に関わるので、油断はできません。有効な対応策は、親がインターネットの危険性を認識することです。「フィルタリングをかける」「親の目の届くところで使う」など家庭内でルールを決めることが大切です。

ゲーム依存やつながり依存などの依存症の心配もあります。ＬＩＮＥなどのＳＮＳで情報交換をするのが日常的となり、帰宅後もずっと友だちとつながっていないと不安という子どもも増えています。周りを巻き込んでのＬＩＮＥは、睡眠や勉強時間の減少、心身の健康への影響、いじめなどが心配されます。町内の小・中学校には、「インターネットに接続できる機器の利用を午後９時までにする」というルールがあります。地域全体で守って、子どもたちの健全育成に協力してほしいです。

インターネットは車の運転と似ています。便利だけれど、危険性を知って、みんなでルールを守らないと事故が起きます。子どもは判断力が乏しいので、軽い気持ちがエスカレートして犯罪行為につながることもあります。

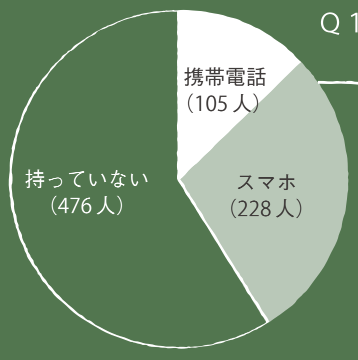
ＳＮＳに頼らない人と人とのつながりの大切さや、適度で上手なインターネットの使い方など、親が模範となってきちんと教え、見守ってあげてください。



学校教育課　課長補佐
指導主事　中本　克也（かつや）さん

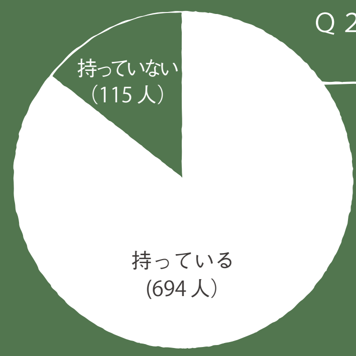
小中学生とインターネット

「平成29年度インターネット等に関する調査」から抜粋（内子町教育委員会調べ）。内子町内の小学４年生〜中学３年生が対象です。



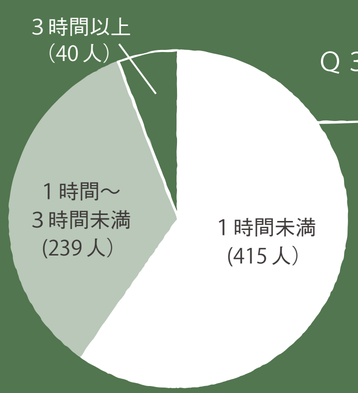
Ｑ１：自分専用のスマホまたは携帯電話を持っているか

約４割の子どもが自分専用のスマホか携帯電話を持っている。スマホは学年が上がるにつれて所持率が高くなり、中３では約５割がスマホを持っている



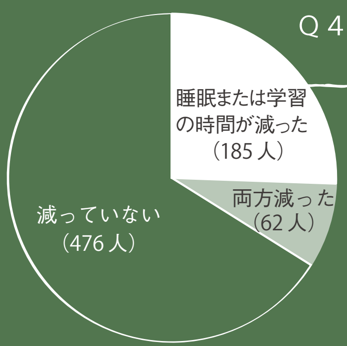
Ｑ２：インターネットが利用できる自分の機器（Ｑ１以外）

８割以上の子どもがインターネットを利用できる機器を持っている。小４でも74.5パーセントが持っている。内訳はタブレット端末やゲーム機が多い



Ｑ３：１日にインターネットを利用する時間はどのくらいか

Ｑ２で機器を持っていると答えた子どもの約４割が１日１時間以上、インターネットを利用している。学年が上がるほど利用時間が増える傾向にある



Ｑ４：インターネットの利用で睡眠・学習の時間は減ったか

スマホなどの機器を持つ４人に１人が睡眠または学習の時間が減ったと答えた。両方とも減った子どもは約９パーセント。中３では約５割に影響が……

光回線につなぐと世界が少し変わる

光ファイバー網の完成を心待ちにしていた皆さんに、その使い方を聞きました。上手に使えば、きっと世界が広がります。

もう一つのデジタル・ディバイド

光ファイバー網が整備され、地域間のデジタル・ディバイドは解消されました。しかし年齢などに起因する「個人間のデジタル・ディバイド」は、まだ大きな課題の一つです。

ネット接続料が高いことや端末の使い方が分からないことなど、理由はさまざまですが、インターネットを利用していない人は、使う人と比べ情報に触れる機会が減っています。行政サービスの電子化などが進めば、利便性の格差も大きくなります。

便利さや楽しさに触れる

光回線を利用すれば、便利さや楽しさが増えるサービスをいろいろ受けることができます。各家庭への接続には申込や接続料が必要ですが、光ファイバー網の整備を機に、ぜひ検討してほしいです。

デメリットや架空請求などの不安や心配もありますが、ＮＰＯ法人凧ネットの大森陸雄さんは「初めての人は、インターネットなどに詳しい知人に相談すること。不安さえ取り除いて、使い始めれば便利さや楽しさを実感できる」と助言します。今後のデジタル機器の進歩は、使いやすさを向上させる方向に進んでいきます。情報の格差をなくすためには、難しそうだからといって触らないのではなく、思い切って使ってみることが必要かもしれません。

1_東京本社とのテレビ電話会議の様子　2_新幹線の部品も製造。高い技術で安全走行を支援　3_内子工場の内部。大小さまざまな部品を製造　4_韓国を含む６拠点をいつでも結べるテレビ電話

どんどん広がる、趣味も生活も友だちも

音楽仲間が毎月第１土曜日、「小田川フォーク村」でライブイベントを開いています。フォークギターが好きな人が集まり、食事をしながら演奏したり、他の人の演奏を聴いたりするイベントです。最初は必死で人を集めていましたが、フェイスブックやユーチューブで情報発信をすることでじわじわとつながりが増えて、今では毎回ほぼ満席の状態です。新居浜市や高知県から来る人もいます。同じ趣味の人たちがＳＮＳでつながるので、実際に会ってもすぐ仲良くなれます。

インターネットは、今までの道具と違って、多様性が素晴らしいです。１回のやりとりで文字や写真、映像や音も送信できます。光回線になってからは、さらに便利になりました。

高齢者にもお勧めです。特に写真や映像が趣味という人はぜひ――。囲碁や将棋は対戦もできるし、趣味や生活に広がりや深みが生まれます。「怖さや不安がある」という人は、凧ネットがいつでも相談に乗りますよ。

ＮＰＯ法人凧ネット
大森　陸雄（りくお）さん

インターネットについての助言やパソコン教室もできます。詳しくはお問い合わせください。
【問い合わせ】
ＮＰＯ法人凧ネット
☎０８９３（５９）２１３２

入江工研株式会社四国事業所
次長　篠原　和彦（かずひこ）さん

世界につながる光回線と入江工研

週１回・月１回、定期的にテレビ電話で会議をしています。重要な仕事があるときは臨時で行うこともあります。パソコンの画面も映せるので、図面や資料を見ながら打合せができます。移動時間がいらないのがいいですね。光回線が使える前もテレビ電話で会議をすることはありましたが、映像が粗く遅いのでスムーズな会議はできませんでした。今は東京の本社・内子・中山・大阪・川越・韓国の６拠点をつないでスムーズな会議を行えます。できなかったことができるようになるのは、とてもありがたいことです。

携帯端末から教育プログラムが受けられるモバイルナレッジも活用しています。高度な技術を身につけながら、ビジネスマンや社会人としてのスキルが向上します。休憩時間などに自分のスマホで気軽に学べるのがいいです。

入江工研は中国や韓国、台湾などの装置メーカーに、真空ベローズなどの部品を販売しています。人工衛星の部品を作ったこともあります。世界に通用する製品を提供し、小さな世界企業を目指しているので、光ファイバー網のように世界や未来につながる会社であり続けたいです。

◀入江工研で製造している部品の一部

入江工研株式会社
内子工場
UCHIKO FACTORY

入江工研の真空技術を支える工場。主に製造の前工程を担い、高度な加工能力と溶接技術を有す。各種技能の国家資格などを持つ優れた職人が、卓越した技を発揮する。